

1 主題名 どうぶつのいのち

3 - (1) 自然愛・動植物愛護

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

内容項目3 - (1)は、「身近な自然に親しみ，動植物にやさしい心で接する」ことをねらいとしている。

動植物は，人間と同じかけがえのない生命をもつ。児童は，生活科で植物を栽培したり生き物を飼育したりする活動を通して，植物や生き物に親しみをもったり，家で自分がかわいがっている動植物に関心をもったりすることができても，それらを絶対的な存在として真に理解するのは難しい。

そこで，これまでの動植物への接し方を振り返り，愛情をもって大切に世話をしたいこうする心情を育てたいと考え，本主題を設定した。

(2) 児童の実態 (1年：男子4名 女子0名 計4名，2年：男子3名 女子3名 計6名)

児童は，1学年，2学年共に生き物に対して興味・関心を強く抱いており，小動物などを家で飼っている児童も多い。しかし，一方ではえさやりや飼育小屋の掃除等世話を怠ってしまう児童も両学年において少なくない。さらに昆虫など小動物に対し，その形や動きの不思議さからか，好奇心の赴くままに心無い行為(羽をむしる等)をとってしまう児童もいる。

本時では，これまでの体験を想起させながら身近な動物とのかかわりに視点をあて，愛情をもって大切に育てていこうとする気持ちをより強く意識化させたいと考える。

また，多様な感じ方や考え方に触れ，価値の深まりを十分にするために，二つの学年の合同の授業とする。そして，一人一人が自分の思いを気兼ねなく語り合える雰囲気を作るために，思考力・表現力等における個人差や，児童の兄弟・友人関係等総合的に考慮し，座席は1学年と2学年の混合配置とした。

(3) 資料について 学習研究社 読み物資料「ごめんね みなみ」

九州の動物園の「みなみ」という名のきりんが，原因不明の死をとげた。調べてみると，死因はお菓子などのビニールの袋がおなかに3キログラムもたまり，胃袋をふさいでしまったためであった。その時みなみのおなかの中には，小さな赤ちゃんがいた。

みなみの死の原因がビニール袋であることは，身近でありながら意外性も含み，児童の興味を引き付ける。さらに赤ちゃんの命まで失う結果につながったということにより切実な問題としてとらえることができる資料であると考えられる。

みなみの死を悲しむ人々に共感しながら，これまでの動植物への接し方を振り返り，動植物の気持ちになって考え，愛情をもって大切に育てていこうとする心情を育てたい。

3 教科・領域・学校行事との関連

月	学年	教科・領域等	題材・主題名	ねらい
5	1～3	特別活動 (学校行事)	遠足 (植物園)	・自然の中で遊んだり，植物と触れ合ったりしながら，自然・植物に興味・関心をもつことができる。
5～10	1，2	生活	大きく なあれ	・あさがお・野菜・さつまいもの栽培を通して，植物に親しみをもち大切に育てようとする心情を育てる。
7	2	生活	かって みたいな	・池や小川・野原にいる生き物に関心をもち，飼育する活動を通して生命の大切さに気付くことができる。
9	1	生活	虫と なかよし	・校庭の植え込みや野原にいる生き物に関心をもち飼育する活動を通して，生命等への関心をもつことができる
10	1，2	道徳 <本時>	ごめんね みなみ	・動植物を大切に育てていこうという心情を育てる。
11	1～6	特別活動 (学校行事)	収穫祭	・大きく実った作物に関心をもち，栽培を支援していただいた人々に感謝し，収穫の喜びを味わうことができる
常時	1～6		学校花壇の 手入れ	・学校花壇の花の植え替えや草取り，水やりなどの世話を通して，植物に対する愛情を育てる。
			檜沢小水族館 の観察	・檜沢小水族館の魚の観察や世話を通して，生き物に対する愛情を育てる。

4 本時の指導

(1) ねらい

(2) 準備・資料

動植物を大切に世話していこうとする心情を育てる。

情景図，ペープサート，CDプレーヤー，ふきだし
ビニール袋（3kg）

(3) 展開

主な活動と展開 ・予想される児童の反応	・教師の支援 評価
<p>1 動物園について思い出を話し合う。</p> <p>2 資料「ごめんねみなみ」を聞いたり，見たりして，みなみや子どもの気持ち等を話しあう。 弱っていくみなみ。みなみがもし言葉を話せたら何て言っているかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 苦しいよ。 ・ 痛いよ。 ・ 早く元気になりたいよ。 ・ 助けて。 <p>みなみは，なぜビニールの袋を食べてしまったんだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 落ちていたから。 ・ おいしそうだったから。 ・ いいにおいがしたから。 ・ ビニールの袋が食べられないって知らなかったから。 <p>赤ちゃんまで死んでしまったことを知った子どもたちは，泣きながらどんなことを思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ とってもかわいそう。 ・ 気が付かなくて悪かったよ。 ・ みなみは赤ちゃんに会えなかったね。 ・ ビニール袋のせいで赤ちゃんまで死んでしまったんだね。ごめんね。 ・ 動物を育てるのはたいへんだな。 <p>3 今までの自分を振り返る。</p> <p>生き物を大切にしていたかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おたまじゃくしをいじったことがある。 ・ 犬のえさやりをわすれちゃった。 <p>4 教師の話聞く。</p> <p>5 「まあるいいのち」を歌う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動物園の絵を提示したり，効果音を流したりすることで，資料への動機づけを図る。 ・ 身近な動物が病気になったりけがをしたりしたときの経験を想起させることで，自分自身と重ね合わせて考えることができるようにする。 ・ 次第に弱っていくみなみの気持ちを考えてみることで人間には，言葉を発しない動物の気持ちを理解することが難しいことがあることに気付かせたい。 ・ 実際に3キログラムのビニール袋を用意しそれを児童に持たせることで，実感として捉えさせる。 ・ みなみが，「ビニールは食べ物ではない」ことすらわからなかったことを確かめることで，動物の身になって愛情をもって接することの大切さに気付かせたい。 ・ みなみのおなかの中から，目を閉じた小さな赤ちゃんを取り出し，死んでしまったみなみの傍に提示することで，失われた二つの命の重さを感じ取らせたい。 <p>みなみと赤ちゃんの死を悲しむ子どもの気持ちを考えることができる。 (発言内容・ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活科の学習での虫との関わりの経験をもとに，自分の動植物への接し方を振り返らせ，価値の内面化を図る。 <p>生き物の気持ちになって考え，大切な命を守るために愛情をもって接していこうという意欲を高める。 (発言内容)</p>

5 家庭・地域との連携

学年通信等を通じて，家庭に本時の道徳のねらいや授業の様子を伝え，動植物の世話に関して家族と話し合う機会がもてるよう働きかけ，日常化への意欲につなげる。